

フ変・用

今は昔、比叡の山に見ありけり。僧たち、

過去「けり」終

格助

宵のつれづれに、「いぎ、かいもちひせむ。」

サ変・未

意思「む」終

四段・用

と言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。

過去「けり」体

四段・用 下二・未 仮定「む」体

さりとして、し出ださむを待ちて寝ざらむも、

打消「ず」未

四段・用 下二・用

わろかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝

強意「ぬ」未

存続「たり」体

たるよしにて、出で来るを待ちけるに、すでに

過去「けり」体

副詞

四段・用

し出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

完了「たり」体

存続「たり」終

この児、さだめておどろかさ

現在の推量「らむ」終

むずらむと、

推量「むす」終

上二・用

待ちぬたるに、僧の、「もの申しさぶらはむ。

存続「たり」体

四段・用 補助動・四段・未

おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは

尊敬「す」用 ⑤ 借① ↓ 児

形容詞・終

四段・已

思へども、ただ一度にいらへむも、

下二・未 仮定「む」体

四段・用

待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ば

過去「けり」体

係・強意

れていらへむと、念じて寝たるほどに、

下二・未

サ変・用 下二・用

受身「る」用 意思「む」終

存続「たり」体

「や、な起こしたてまつりぞ。をさなき人は、

四段・用 補助動・四段・用

感動詞 副詞

終助

寝入りたまひにけり。」と言ふこそしのしけれ

完了「ぬ」用

過去「けり」已

ば、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせ

形容・シク・終 四段・用

四段・命

に、**「えい。」**と**いらへたり**ければ、僧たち笑ふ

下二・用

過去「けり」已

四段・体

に**「えい。」**と**いらへたり**ければ、僧たち笑ふ

下二・用

過去「けり」已

四段・体

に**「えい。」**と**いらへたり**ければ、僧たち笑ふ

下二・用

過去「けり」已

四段・体

に**「えい。」**と**いらへたり**ければ、僧たち笑ふ

下二・用

過去「けり」已

四段・体

に**「えい。」**と**いらへたり**ければ、僧たち笑ふ

下二・用

過去「けり」已

四段・体

こと限りなし。

形容・ク・終

完了「たり」体

今となつては昔のことだが、比叡山の延暦寺に一人の子供がいた。僧たちが、

夜に手持ち無沙汰で（退屈で）、「さあ、ぼたもちを作ろう。」

と言つたのを、この子供は、期待して聞いた。

そうかといって、作りあげるのを待つて寝ないでいるのも、

きつと（体裁が）よくないだろうと思つて、片隅に寄つて、

寝た振りをして、（ぼたもちが）出来上がるのを待つていたところ、もう

作りあげた様子で、わいわいと騒いでいる。

この子供は、きつと（僧たちが）起こすだろうと、

待つていたところ、（一人の）僧が、「もしもし。

目をお覚まし下さい。」と言つたのを（聞いて）嬉しい

とは思つたけれども、（もしも）たった一度で返事

をしたら、

（ぼたもちが出来上がるのを）待つていたのかと

（僧たちが）思うと考えると、もう一度呼ばれてから、返事をしようとして、我慢して寝ているうちに、

（別の僧が）

「おい、起こし申し上げるな。幼い人は、

寝入ってしまったわね。」と言つたので、

ああ、困つたことだと思つて、もう一度起こしてくれよと、

思いながら寝て聞いていると、むしゃむしゃと、ひたすら食べる

音がしたので、どうしようもなく、しばらくしてから、

「はい。」と答えたので、僧たちはこの上なく

笑つた。